

登録コード	E2420900	開講年度	2026			
授業科目	器楽表現法基礎A				担当教員	中島 卓郎
英文授業名	Elementary Instrumental Music Expression				副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限	対象学生
講義室	教育N409		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	26Eカリ，25Eカリ，24Eカリ，23Eカリ，22Eカリ，21Eカリ，20Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	知覚・感受をもとに自己の思いや意図をもって表現活動を展開し、表現内容にふさわしい技能を身につける。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	自身の演奏解釈について言葉で説明ができ、多様性・独自性を有する表現ができるようになる。
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	ピアノおよび様々な管打楽器の特性を理解する。 それぞれの楽器の多様な奏法を習得する。 器楽アンサンブルのよさや美しさを味わう。					
(5)授業計画	講義および個人あるいはグループレッソンの形態で展開する。 第1回 ピアノ個人発表 第2回 表現における技能習得の在り方について 第3回 ピアノの構造および基礎的な奏法 第4回 ピアノの特性と表現の関係 第5回 ピアノ演奏におけるタッチについて 第6回 ピアノ演奏における読譜と暗譜の方法 第7回 ピアノ中間試験(暗譜演奏) 第8回 フレージングについて 第9回 ピアノを伴うアンサンブルについて 第10回 楽曲の構造の知覚と感受について 第11回 楽曲の構造の知覚と感受について(音色・リズム・速度・) 第12回 楽曲の構造の知覚と感受について(旋律・強弱・テクスチャ) 第13回 楽曲の構造の知覚と感受について(形式・構造) 第14回 表現の多様性について授業アンケートの実施 試験演奏会					
(6)成績評価の方法	知覚・感受をもとにした自己の思いや意図をもった表現活動の展開(40%)、表現内容にふさわしい技能の習得(20%)、自身の演奏解釈の説明(20%)、表現の多様性、独自性(20%) ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可					
(7)成績評価の基準	演奏表現において，（i）楽譜に示された音をほぼ再現できており，（ii）知覚・感受をもとに自己の思いや意図をもって展開しており，（iii）表現内容にふさわしい技能を身につけており，（iv）自身の演奏解釈についてある程度言葉で説明ができ，（v）表現に多様性があり，かつ独自性を有するレベルにあれば「卓越している」。（i）から（v）の4項目を満たしていれば「かなり上にある」。3項目までできていれば「やや上にある」。2項目までできていれば「水準にある」。					
(8)事前事後学習の内容	具体的な楽曲において，次回までに解決すべき課題を毎回指摘する。課題の達成度に関しては次の授業で確認する。授業内容を踏まえて十分に準備して授業に臨むこと。					
(9)履修上の注意	事前学習の程度により毎講義・レッスンの内容の質が大きく左右されるので、十分な準備が必要である。 中間試験は暗譜による演奏発表とする。 正当な理由での欠席に関しては、相談のうえ補講等の対処をする。					
(10)質問、相談への対応及び連絡先	中島:N409室にて随時。研究室電話番号:026-238-4137 メールアドレス:pf-naka@shinshu-u.ac.jp 井田:N408室にて随時。研究室電話番号:026-238-4131					
【教科書】	受講者の技量や習得すべき内容に応じて適宜、楽曲を指定する。					
【参考文献】	参考書： G.ネイガウス，森松皓子訳，『ピアノ演奏芸術 ある教育者の手記』，音楽之友社，2003					